

小児科

研修プログラムの概要・特徴

概要：

小児科学『選択研修』期間中に小児科、新生児集中治療室（NICU）を研修する。ローテーションの順序や選択に関しては、各研修医の希望を尊重し、なるべく多くの疾患を経験できるように指導医・プログラム責任者が配慮する。

特徴：

小児科は血液・腫瘍、神経・筋、代謝・内分泌、腎臓、膠原病、重心分野の診療を主としている。毎週臨床カンファレンスがなされ、各診療グループでも勉強会を開催している。

NICU では呼吸、循環、栄養管理を含めた新生児医療の現場を経験できる。また、その後の発達フォローも外来で経験できる。

小児救急、小児循環器に関しては、各関連病院と連絡を取りながら必要に応じ経験できるように配慮している。

研修の目標

【 一般目標 】

小児およびその保護者との意思疎通をはかり、成長発育過程にある小児の生理的変動が観察でき、小児・乳幼児・新生児の診察法を修得できるようにする。また、小児の急性及び慢性疾患の病態と特性を知り、それに応じた小児に特異的な検査と治療が実践できるようにする。

【 行動目標 】

1. 患者-医師関係
 - 1) 小児、ことに乳幼児とコミュニケーションがとれるようになる。
 - 2) 保護者から診断に必要な情報を的確に聴取することができる。
 - 3) 病児および保護者が納得できる医療を行なうために、十分な話し合いができる。
 - 4) 守秘義務を果たし、病児のプライバシーへの配慮ができる。
2. チーム医療
 - 1) 指導医や専門医・他医に適切なコンサルテーションができる。
 - 2) 同僚医師・後輩医師への教育的配慮ができる。
 - 3) 入院病児に対して他職種の職員とともに、チーム医療として病児に対処できる。
3. 問題対応能力
 - 1) 指導医とともに保護者に適切に病状を説明し、療養の指導ができる。
 - 2) 小児診療における自己評価及び第三者による評価をふまえた問題対応能力を身につける。
4. 安全管理
 - 1) 現場での小児医療の安全を理解し、安全管理の方策を身につけ、医療事故対策に取り組む。
 - 2) 医療事故防止および事故発生後の対処について、マニュアルに沿って適切な行動ができる。
 - 3) 小児病棟特有の院内感染対策を理解し、対応できる。
5. 症例提示
 - 1) 小児疾患の症例提示と討論ができる。
 - 2) 小児臨床症例に関するカンファレンスに参加する。
6. 医療の社会性
 - 1) 病児の疾患の全体像を把握し、医療・保健・福祉への配慮ができる。
 - 2) 小児科領域の医の倫理や生命倫理について、保護者と話し合いながら適切に行動できる。

研修の方略（スケジュール等）

	午 前	午 後
月	小児科病棟、外来、NICU	神経・筋カンファレンス 全体臨床カンファレンス 教授回診
火	小児科病棟、外来 NICU	小児科病棟 NICU
水	全体抄読会（小児一般と基礎研究） 小児科病棟、外来、NICU	小児科病棟 NICU
木	小児科病棟、外来 NICU	新生児回診・カンファレンス 周産期カンファレンス
金	小児科病棟、外来、NICU	腎臓回診・カンファレンス 血液・腫瘍カンファレンス

※救急患者来院の時は、指導医とともに対応する。

研修の評価

研修の評価は、「必修分野」研修と同様である。
評価は研修修了時に研修指導責任者と指導医が行う。

研修実施責任者

小児科長：中村 公俊

研修指導責任者

小児科：(正) 阿南 正
(副) 松本 志郎
NICU：(正) 三淵 浩（新生児学寄附講座）
(副) 岩井 正憲（総合周産期母子医療センター）